

十一月十六日、全日本選手権大會九州豫選 準優勝戦、對長崎高商 二―一勝
優勝戦 對熊本二師 三―一勝
十一月廿三日福岡遠征、對九大 六―〇敗

對山口高校 三―一勝
一月二日全國高校大會 對成蹊高校 三―〇敗

(植野記)

排球部部報

ホワイトセーター生

序言

排球の歴史は若い。ブラウン氏によつて輸入されて、以來廿年に満たず。その故か一般民衆の斯技に對する注目は、残念乍ら甚だ僅である。

排球を、女子的の運動と考へられる人は、残念乍ら、眞の排球を御存じでないと思ふ。排球とても、随分男性的なものだと思ふ。前衛のストツプを抜いて、失の如く飛

ぶキル、土を噛む様なタツチ、眞に男性的な運動である。

されば、長い間の俱樂部の苦しい体験を経て、今年より新に部として認められたのである。

部の歴史は若くとも、吾々にはたぎり立つ血潮がある。その清き血潮こそ、若人の有する唯一の誇であり、ゲームに當つて全てを忘れ、凄いきるに向つて飛付かせる原動力である。

我田引水はこの位に止して、昨秋の戦跡を記さん。

一、第一會南九州排球選手権大會

二、第二回西日本高専リーグ戦

十二月廿六、廿七日福岡市中學修猷館々庭にて行はれた。

出場校五高・福高・長崎高商・山口高商の四校である。

長崎高商は、全國高専大會に、準優勝戦迄残つた強豪で、山口高商は中國西部の雄福高も又當時極めて高調で、北九巡の覇者修猷館を破つた新進である。そのかみ、肥

後の菊池武敏と阿蘇大宮司の一族が勤王の旗風勇ましく、遊賊足利尊氏を迎へ撃つた多々良の濱、時こそ違へ同じ濱邊、戦はざる前に腕鳴り血湧くを覺ゆ。

第一日

昨日の天氣は晴れたるも、玄海の波を越え、多々良濱に吹く風は寒し。抽籤により一昨年此處にて戦ひ一セットも許さず、破りし長崎高商と戦ふ。

第一セット (五高17―21長高商)

五高稍焦り氣味にて、前衛のネットオヴアー多く、凡失を繰返す。長商長く攻撃し就中左中衛のキル物凄く、五高の前衛陣を破りて、左中衛を攻撃す、後半五高奮起し中衛センター長谷川のキルにより、得點すされども敵よく止めて、第一セットを奪はる。

第二セット (五高21―13長高商)

中衛センター長谷川、左前衛松本の攻撃により、容易に勝つ。

第三セット (五高14―21長高商)

双方良く攻め、良く守り、容易に得點を

許さず。五高のパスキル正確を缺き、敵に又一セツト奪はる。

第四セツト (五高21—17長高商)

五高奮起し、後衛中央の塚本、矢の如く飛來るキルを飛付きてパスし、そのフオーム満場を酔はす。又長谷川のキル、真く敵前衛を抜き、後衛を惱ます。左前衛松本のタツチ決定的にして、此のセツトを奪ふ。

第五セツト (五高21—19長高商)

双方負けられぬ試合なり。長商左中衛のキル、猛然として前衛を抜き、後衛を惱ます。その巨彈續けさまに左翼を攻撃す。必死となりて防戦し、一方、前中衛のコンビネーション調子よく、キルタツチを連發し逆襲に出て、遂に敵を撃破し、幸先良しく意氣甚だ上る。

第二日

五高對福高戦

第一セツト (五高16—21福高)

前日と、全く別人の觀あるも福高、中衛センターと、前衛センターの連絡良くとれ幾分調子を下した五高に、猛烈なタツチキ

ルを連續的に送る。五高壓され氣味なり、遂に一セツトを奪はる。

第二セツト (五高10—21福高)

福高益々好調、五高チームマーク亂れ、連絡意の如くならず。凡失を繰返す。その上ダブルフォールス續出し、長谷川必死となりて回復を計りしも、遂に二セツトを奪はる。

第三セツト (五高21—7福高)

五高奮起し、調子を回復し、左前衛松本のタツチと、長谷川のキルは、正確となり福高漸く疲れ現はれ、又右中衛三松のキル折々効を奏す、加ふるに、前衛のストツプよく止り、敵鷹之が爲に氣を抜かれ、遂に壓倒的に勝つ。

第四セツト (五高21—12福高)

調子益々好く、敵もよく我が攻撃に應ず。されど實力の差如何ともなし難し。

第五セツト (五高21—15福高)

愈々最後のセツトに入る。最初より双方の攻撃物凄く、五高後衛神武、遂に大會最初の負傷者となる。接戦亦接戦、同點とな

りては、リードシ、リードされては、同點となる。遂に14—14となる。此の頃より長谷川の腕は益々冴え、そのキルは敵陣を混惑さす。又松本のタツチ物凄く、敵前衛のストツプ、殆ど効を奏せず。之に反し、吾軍の前衛、よくストツプして、中衛と相撲ちて、猛烈に巨彈を連發し、遂に勝を占む。

愈々二勝者戦五高對山口高商となる。敵の主力は中衛センター、及び右であり、トスを前衛中より右中衛へ流し、ライン外より打ち、或は前衛右より中衛センターに流して、キルをして攻撃する如く思はれる。亦敵の後衛は案外よく球を受ける。之に對して五高の作戦は、パスを前衛中央に集め、それより、中衛センターへトスし、猛烈なるキルを打込むか、或は又左前衛から、風を起す様なボールを敵中衛の足下にたき込む方法を取り、又右中衛に流して、攻撃する法を取つた。

第一セツト (五高20—22山口高商)

双方必死の意氣物凄く、五高最初より攻勢に出たが、敵もよく止め、容易に屈せず

野村マネツヤの叱咤の聲、折々響く。敵も思つた通りの攻撃法なるも、我よく應じ19—19となり、更に一點を加へ20—19となり、一點勝つかと思はれたが後前衛の連絡亂れ20—20となりジユースとなる。而るに前衛の連絡、又破れ20—22となり、惜くも一セットを敵に許す。

第二セット (五高21—11山口高商)

このセットに入るや五高の作戦効を奏し山口手も足も出ず、呆然自失の態。

第三セット (五高21—19山口高商)

作戦の効よく奏し、前半全く敵を壓したが、後半敵盛り返して、追撃するも及ばず。

第四セット (五高22—20山口高商)

このセット、最初より接戦を思はせた。五高リードして、10—10のとき、敵の中衛センターのキル、前衛陣を抜きて來り、地に落ちしかと見たが、後衛センター塚本飛び付いて之を捕へ、中衛センター之を追打し、11—10とリードし、チェンジコートを取り優勢であつた。双方盛にファインプレイ續出し、観衆汗を握る。其後山口高商

盛り返し、忽ちリードシ、16—16 16—17 16—18とリードして16—20となり、五高このセットを失ふかと思はれたが、後衛塚本の好守と、中衛センター、前衛左の攻撃に力強い所を見せ、中衛センター長谷川のキルト、左前衛松本のタツチにより、連續6點を取り、遂に優勝。多々其濱邊に、凱歌を上げた。以上の如き戦績を残した吾々は越人的なプレイヤーたる長谷川、塚本、松本の三君を龍南より送れりされど親愛なる龍南人よ吾人は更に本年龍南に優秀なるプレイヤーたる幡摩、平井、岡、小田部、圓山、武本君等を得たのである乞ふ將來の雄躍を!!!

馬術部

十一月二十七日

我部にとりて最も記念すべきの日なり。龍南會役員會開かれ今迄俱樂部として活躍し來つた吾々はその舊殻を破り新生の氣に燃えつ、此の役員會に委員三名を送るそして豊島熱烈に部創立の獻言をなす。十一日

だと云ふに説明をなす彼の顔は汗に輝くのだ。しかしして昨年より第二回目の排球部と共に無事可決されて此處に馬術部として輝かしき第一歩を踏み出した。則ち此れ昭和六年度の最初の光榮なのである。

以下昨年度の日誌の抜粹に依り六年組の現在迄脾肉の歎に沈むが如き無聊に代ふ。一月十日俱樂部としての人員募集をなす。しかれども七十名にその人員を制限せざるを得ぬ事を悲む。

然も軍隊の都合に依り折角の土曜日すらその練習を危ぶむ事の如何に多き我部員一同の最も残念に思ふものである。冬休暇中十日間の練習及び師團主催の遠乗會に参加したる後一月二月三月の正規練習各二回宛春休練習五回四月五月六月各一回で六月に入つて初めて選手の特例練習を行ひ十五日の熊本四高專聯盟の馬術大會に備へる爲に此の一週間を酷暑と戦ひ實に寢食を忘れて意氣の練習なのだ選手未だ未熟なりとも此の不屈の五高魂をもつて勝たんのみだ。六月十五日愈々試合の日なのだ復讐を誓つ